



掲示版 第10号

| | | |
|----|-------------------|-----|
| 巻頭 | どうぞよろしく | 1 |
| 報告 | 全国の動き | 2~3 |
| | 第6回損保講習会報告 | 3 |
| 報告 | 園芸療法が-デニング報告会 | 4~5 |
| | 交流会報告 | 5 |
| | 伝えたいカタチ[2] | 6 |
| | ボランティアはじめの一歩フォーラム | 7 |
| | まめ知識コーナー(10) | 8 |
| | インフォメーション・編集後記 | 8 |



どうぞよろしく

こ~じのうまのうしゅうかいそつだんしえんたいせいれんけいちょうせいいいんかい
 高次脳機能障害相談支援体制連携調整委員会
 委員 荏原 実千代
 千葉リハビリテーションセンター小児神経科



私は、平成13年度に国の高次脳機能障害支援モデル事業以来、一貫して小児期受傷・発症の方々の診療に携わってきました。小児期の方には評価・診断・支援のすべてにおいて、青年期以後の受傷・発症の方々とは違った難しさがあり、診断には常々苦慮しています。社会復帰先が学校であることも大きな違いです。私たちは当初から、チームで知恵を出し合い協力し合い各々の専門性を活用して高次脳機能障害のお子さん、ご家族に対応してきました。

名称はモデル事業時には小児ワーキンググループ、支援普及事業になってからは小児プログラミングプロジェクトと変更されましたが、チームは医師、言語聴覚士、心理発達士、作業療法士、理学療法士、ケースワーカー、看護師より構成され、皆一丸となって症例から学び、次の症例にはそれを活かせるように奮闘しています。

学校への訪問支援も行っています。多くのセンタースタッフが小児の特性をふまえた支援を経験し、これらの経験がチーム医療として引き継がれ、今後も高次脳機能障害の方々の支援に活かされていくように鋭意努力していきたいと考えております。皆さんのご支援とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

1
報 告

■平成21年度 第2回支援コーディネーター全国会議

日時 平成22年2月25日 会場 三田共用会議所

高次脳機能障害支援普及事業の実施要綱に定められた都道府県高次脳機能障害支援拠点機関コーディネーターを対象と全国会議の報告をします。

会議は、1 平成22年度事業について

2 実績報告

(4つの機関から実際取り組まれている支援の報告)

3 グループ討論会

(高次脳機能障害と制度、情報管理)

の構成で行われました。千葉からは旭神経内科リハビリテーション病院と千葉リハビリテーションセンターの2つの支援拠点機関から出席しました。

2の実績については、東京、広島、名古屋からは支援困難な事例を発表していただき、学ぶ機会を得ました。それぞれ苦慮しながらも、いろいろな工夫やネットワークを用いて対応されている状況を学ぶことができました。あと高知からの発表は、支援拠点機関として取り組み始めた状況の報告があり、これからあるいは取り組みはじめの機関にとって他県の行っていることがわかる良い機会だったと思いますし、すでに取り組まれている機関には、具体的な連携や普及啓発活動を今後も行っていく上で参考となるものでした。

3は、「制度」「情報管理」の講演を2名のコーディネーターからしてもらい、それを題材としてグループでディスカッションしました。

「制度」は共通するものと自治体で異なるものがあり、全て共有していくことはできませんが、情報提供の方法など学ぶことができました。また「情報管理」は長期に支援を行う上で重要なことであり、支援普及を高めるために必要な実績報告などにもつながる大切なテーマでした。各機関で工夫して取り組まれています。より合理的で活用しやすい情報管理のあり方は引き続き検討していく課題でもあります。この会議は、他都道府県の支援コーディネーターの声を直接聞くことのも有意義な場です。

全国の動き

例えば、支援を必要としている方の中には、途中で都道府県を移る事もあります。そんな場合に支援拠点機関がお互いのスタンスを理解した連携をすることもできると思います。会議内容とともにこうしたメリットを活かすことも支援コーディネーターには重要なことだと思います。

地域連携部 森戸



■高次脳機能障害支援普及事業第二回全国連絡協議会および厚生科学研究費「第二回 高次脳機能障害者の地域生活支援の推進に関する研究」全体会議

全国47都道府県の行政担当者および支援事業従事者111名が参加。支援拠点機関未設置(図1)の関東ブロック3県は22年度中に設置予定。残るは1県のみ未設置県となった。モデル事業後平成18年度から開始された高次脳機能障害支援普及事業は、すべての都道府県で実施されたことになる。5年を待たずに全国で事業が実施されたことは、驚異的な速さと言えよう。

議題(1)各県の実施状況はブロック長から報告された。千葉県に関して、詳細なデータは関東ブロック長の埼玉県総合リハから報告されたこともあり、厚労科研の分担研究者として千葉県の大まかな実績と青少年期発症者の就学支援に関する課題を報告した。

議題(2)高次脳機能障害支援普及事業平成22年度運営方針では、厚労省健康福祉部企画課高城亮課長補佐から、今年度と同額で、来年度も事業継続が審議されており、ほぼ確定的との報告があった。

支援コーディネーター 太田

平成21年度



高次脳機能障害支援拠点機関分布図

図 1

平成 22 年 2 月 26 日現在支援拠点機関未設置県(白抜き部分)



損保

■第6回高次脳機能障害リハビリテーション講習会報告

| | | |
|----|------------------|---------------|
| 日時 | 平成 21 年 12 月 6 日 | 13:30 ~ 16:00 |
| 場所 | 京葉銀行文化プラザ | |

テーマ「高次脳機能障害社の生活支援の手がかり」～社会的行動障害に焦点を当てながら～

講師 阿部順子先生 岐阜医療科学大学 保険科学部教授・名古屋総合リハビリテーションセンター 高次脳機能障害アドバイザー

社会的行動障害に対する取組み、そして高次脳機能障害の支援のポイントを、事例を通じた講演でした。

講演で話された6つの支援のポイントを紹介いたします。

1 ニーズは「普通」・・・普通の生活がしたい。認められたい。受傷・発症前の自分に戻りたい。現状からのステップアップを望んでいる。

2 支援のベースを作る・・・機能の回復を促進する。診断と心理教育支援を受けた方がうまくいく経験。

3 支援の環境を作る・・・構造化：シンプルで混乱が少ない。障害特性を理解して対応してくれる人。家族以外に信頼できる第三者。周囲に認められる。同じ障害の仲間がいる。

4 補償行動を身につける・・・メモリーノート、携帯電話、マニュアルなど代償手段、習慣化、環境の構造化：日課作り、案内表示などわかりやすい環境、解決方法のアドバイスやヒントを出すなど周囲の理解と協力による人的支援。

5 行動に介入する・・・体験を通して障害を実感行動管理 適切な行動の定着化、ベースになる生活行動をひとつずつ固めてステップアップを目指す。

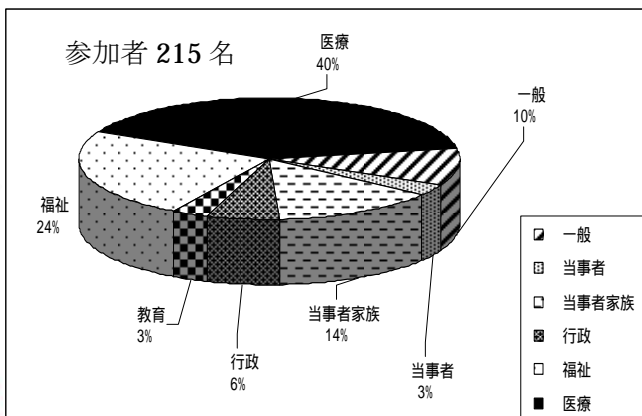
6 長期的に支援をマネジメントする・・・支援コーディネーターや主治医、家族、その他関わる支援者の役割がそれぞれにある。

適切な時期に適切な支援につなぐ支援コーディネーターの役割、回復の状況をモニタリング、社会生活からの逸脱に歯止めをかける、人生の先輩者となる（主治医の役割）、日常的な行動を観察し、身近な支援者として調整役を担う（家族の役割）など、そして今、生活版のシヨブコーチについて試み始めている話もありました。

参加された方々からはそれぞれの思いを持って講演を聴かれたようでアンケートでも現在の悩みやこれからの講習会への期待する内容など多くの意見をいただきました。

皆様、ありがとうございました。

地域連携部 森戸



報告

園芸療法 ガーデニング報告会



千葉大学「環境健康フィールド科学センター」と共同で更生園のガーデニング活動を研究として開始したのが平成21年5月からでした。ガーデニング活動を選択し、研究に協力いただけただ次脳機能障害をお持ちの方々を対象に実施しました。

千葉大学の学生さんや大学院生・教官など、職員だけでなくいろいろな方の参加は、ガーデニングを選択した人たちにとって、新鮮で且つとても楽しい活動だったようです。

更生園のガーデニングのプログラムに参加した利用者さんが、一年間の集大成として報告会を2月20日に行いました。報告会は、参加者自らパソコンのパワーポイントを使用して作成し、貴重な経験をしたという3名に今の気持ちを語っていただきました。

ガーデニングを始めるときにやりたい！と思って参加しましたか？

Sさん 植物を育てた時があったので参加しました。
Tさん やりたい！と言うより、なぜガーデニングがあったかということに興味がありました。
Fさん 以前ボランティアとして参加していた時期がありました。その時のように参加してどのような意義があるのだからという感じだった。

ガーデニングに参加した始めの時に、気持ちは変わったことや面白かったことはありますか？

Sさん 更生園の裏のところにストレス発散のために木を切り倒すことが面白かったです。(T僕も参加したかったな。)
Tさん 単純な事に対して、素直に向き合えるようになったかも・・・何気なく植物が育っていく過程には意味があるので、そういった理由に興味がありました。植

物は環境さえあれば、自ら成長していくところが面白かったです。花壇の土が違ったりしたら、植物の成長にどれくらい差が出るのか知りたいと思いました。

Fさん 自分の行動の意味を考えるようになった気がします。種をまいてから水やりしていると、発芽そして成長という形で答えてくれることにやりがいと責任感を感じることができました。園芸からも見つけられた自分の良い点、長所を今後どう活かしていくか見ていきたい。

ガーデニングを通して知りたかったことはありますか？

Sさん ガーデニングを通しての作業が知りたかったです。

作業については何か調べたり、先生に聞きましたか？

Sさん 先生に聞いて、その作業についてやりました。その中で興味があったことは、トマトを育てる事なんですけれども、家でも育てていて小さいのしか収穫できなくて、なぜ小さいのしか収穫できないのか・・・いろいろ作業を経験してやってやり方がわかりました。

大きくなる方法はわかったのですか？

Sさん 枝をおとす、芽かきという作業があったのでその作業を知りました。

ガーデニングプログラム二年を終えて、自分がガーデニングの活動を通して変わったと思うことはありますか？

Sさん 体力がついた！道具をうまく使えるようになったことです。
Tさん 丁寧に手先を動かして、地道な作業を長い時間続ける力は確実にアップしたと思います。
Fさん 決まった時間に決まった作業、行動をするという意識が強くなりました。普段の生活の中でも大変なことだと思っ、これからは生活の中で習慣づけるものは多いので役立てたいです。

これからもガーデニングのプログラムは参加したいですか？

Sさん はい。是非参加したいです。
Tさん はい。参加したいです。

Fさん 利用者の方々とガーデニングのようにコミュニケーションをとるプログラムは少ないし、自然にふれての活動は好きなので参加したいです。先生が話してくれたように、あらゆる分野を用いる園芸の活動はこれから先もリハビリ、また自分の分野を広げることになるのかなと興味深いです。

報告会の準備ではスライド作りもやったそうですね、それについて、大変だったことは何ですか？

Sさん 発表会の時に言う文書を考える事が大変でした。

Tさん 自分達の思っていること、感じている事を表現し、聞き手に理解してもらうためにはどういった言葉で伝えれば伝わりやすいか考えるのが大変でした。

Fさん 写真の説明において自分の感覚で書いたことは自分でわかるんですけど、人が聞いた時に皆が理解できるように文章をまとめあげることが大変でした。

報告会の様子 右下発表者がインタビュー3名



報告会のスライド作りは聞き手を考えて作り上げた事を感じられますね。では、スライドを作っていく過程で楽しかったことや勉強になったこと役に立ったことはありますか？

Sさん 楽しかったことは写真選びです。懐かしく思う写真があったから。勉強になったことは、報告会とかガーデニングに来ている学生さんとか先生とか、どうしてこのガーデニングを行うようになったか、それを通して今後どうしていくのかわかりました。

Tさん 言葉の使い方、表現の仕方が勉強になりました。聞いてくれる人の事を考えて作ることが楽しかったです。

Fさん 勉強になったことは、スライド作りでパソコンの勉強になりました。活動の説明でアニメーションなどを使ってどのポイントで笑いをとりに行くかなど直前まで考え抜いたことが楽しかったです。

聞いているだけでも楽しい報告会だったようですね。やって良かったと思いましたが？

Sさん やって良かった。一年を通して更生園の裏庭の変化がわかった！

Tさん 良かった。今まで行ってきたことなどを人に伝えることで、自分達の行動など、プログラムの意味などを改めて再確認でき、次に繋げる事が出来るし、目標も立てやすくなったと思います。

Fさん はい。自分達の一年の活動を振り返り、自分の成長も見れて良かった。先生が話してくれたガーデニングの説明と過去の活動を照らし合わせて考えることができた。なかなか、ああいう場でないと味わえない緊張感があり、その中で発表するということはとても貴重な経験になりました。



インタビューの様子



Sさん、Tさん、Fさん、ありがとうございます。インタビュー中、報告会に来てくださったご家族や友人の話や野菜作りを通して日常が変わっていったご自身のお話など、編集部も当事者の思いを聞けて大変良かったと思います。また、報告会に見学に来ていたご家族からは、こんな声をいただきました。

園芸療法報告会に参加して

昨年の三月末に息子が更生園に入所し約一年が経とうとしています。園療法の参加については、プログラムの中の一つとして参加することにしました。

最初は千葉リハの裏庭で、花や野菜作りどんな効果があるのか、半信半疑でした。担当の先生の報告で息子が木立の伐採や野菜やヒマワリなどを育てている事を聞き、私たちがも何度か見学し、本人からも作業の大変さなどを聞いた。野菜の調理法なども教えてくれる様になり、行動的に活動している息子を嬉しく思いました。今までは七歳で事故をしてから、周りの人々について行くのがやっとで萎縮し、言われた事をやるのがやっとだった息子が、今では自分で考え積極的に行動し始めている。成長している息子に対して、私も親としての接し方を考えなくてはと思っています。

今回の報告会で、園療法で身体を使い自然に触れ、植物の成長や人との交流、外に出ることにより視野が広がるなど、少しずつですが息子にもこのような効果が出て来ているような気がします。休みの日には私とともに、ママさんバレーの練習に参加して周りのお母さんや子供たちとも交流を持てるようになり、最近では障害者のバトミントンクラブにも自分から参加しています。でも今年から職リハコースに移るので、このコースが無いのが残念です。更生園に居る間は続けても良いのではないかと思います。それは今回の報告会で色々な写真を見て息子の笑顔を見るとき、事故前の元気で明るい息子の笑顔思い出し涙が止まらなかつたからです。あの写真の笑顔が園療法の効果の一つと思っています。

利用者家族

第8回高次脳機能障害者交流会報告

日時 平成22年3月6日 130〜180
会場 千葉リハビリテーションセンター
参加者 62名



前半の全体会は、暮らしに役立つ情報「カードローンや多重債務などについて」として千葉消費センターの君山潤子様に講演をしていただきました。

生活に密着したテーマを、福祉制度に関することにも触れながら講演していただきました。

参加された方から「カードローンとか多重債務は自分には関係ないことと思うが参考になった。」などの声をいただきました。また「実際の例二般の場合、高次脳機能障害の場合は取り上げて話をしてもいけると良かった」という意見もいただきました。

皆様からの貴重な意見を参考にさせていただきます。次回以降の交流会を企画していきたいと思えます。

後半は「不児・更生園 成人」親友の会当事者グループにて分かれてそれぞれのところでグループディスカッションをしました。成人のグループに参加された「高次脳機能障害者」家族の代表の角田さんからいただいたメッセージを紹介いたします。

『交流会では一人の方から就職・復職を果されたことを聞ききました。一人は家族員の方で息子さんが高次脳障害で就職され、自分障害者用車輦を運転し通勤しているとのこと。今一人は去来揃っての参加でご主人が復職された方です。お一人から辛いときに家族員に参加されて家族同士の話し合いで励まされたり、ホッとしたりして救われたと感謝されました。家族会の活動に対して感謝をされて、お役に立てて本当に良かったと私の方こそ有難いことだなと感じました。』

また話合いの席には当事者の方が参加して、天候不順な今の時期眠い・だるい・やる気がない」等苦しい思いを聞かせてくれました。当会でも当事者が参加し自分の気持ちや行動について話をするときは家族が真剣に耳を傾けます。それだけ当事者の気持ちや行動について難しいことと実感されます。家族は勿論、当事者同士でも社会復帰を果した人の「休憩は必ず取る、そのために携帯のアラームを使え」出来ないうことは出来ないし聞かざる等の話も役立ちました。交流会の活動に感謝されたこと、当事者の気持ちが理解できたことは非常に意義深い会でした。』

来年度も実施予定です。皆様ぜひ、参加ください。ありがとうございます。

地域連携部 森戸

伝えたいカタチ【2】



12年前に事故で高次脳機能障害になってしまった当事者でTKK会員の小澤希予志さんが現在の気持ちを語ってくれました。

失敗を重ねたりしたけれども・・・

これから話すのは、印象に残っている事ですが、私は三人兄弟の末っ子で、大変心強い兄が二人います。二人ともスノーボードのインストラクターをしていました。

私が高次脳機能障害になって、友人も少なくなっていました。いつも家にいるので、真ん中の兄が新潟に誘ってくれました。行きは兄と一緒に車で行きましたが、帰りは一人です。越後湯沢から新幹線に乗って、東京駅に着いたら、母が東京駅に迎えに来る、という予定でした。

帰る日、真ん中の兄に夜、越後湯沢まで車で送ってもらい、駅の改札で別れて一人でホームに行って電車を待っていました。そこに新幹線が来て、乗車券の番号の車両をやっと探し、乗ろうとしたらボタンと扉が閉まって、乗れませんでした。これは最終の新幹線でした。

そのあと、いろいろとややこしいことがあり何とか東京に帰って来れました。これは越後湯沢の駅長さんと駅員さんのおかげです。私は障害者という事を言ったら、自宅に電話をしてくれたり、帰る方法を考えてくれたりしました。

次ぎに上の兄が猪苗代でスノーボードをしているので、今度は上の兄の所へ行くことになりました。また帰りは一人です。郡山から新幹線で東京に帰り、母が迎えに来ることになっていました。前回、乗りそこねたので、今回は上の兄に母が「車両の中に入って座席に座らせてから別れてね」と言われたらしく、上の兄はその通りに私を座席に座らせてくれました。

その時、電車が発車して、今度は兄が降りれなくなってしまった。宇都宮まで兄は無賃乗車をして、またややこしいことになってしまいました。こういうエピソードがあります。この事で兄たちも私の障害の事がわかってきたようでした。

こんな具合で一人で行動すると、いろんな問題がでてきます。カイドヘルパーの利用も出来ませんが、条件があったり、障害を理解してもらえなかったり、個人の状態になかなか合わせてもらうことが難しいです。

もっと障害を理解したヘルパーさんの育成と人数を増やしてほしいと思います。たとえば、高次脳機能障害があると自分から気付いて行くことや、お願いすることが、苦手になり人もいます。そういう人に対しては、ヘルパーさんから気付いた事を提案してもらったり、声をかけてほしいです。そこから、自分たちで気づいたり、考えたりすることが出来るからです。

そして、私には記憶障害・注意障害・遂行機能障害があり、2つ以上の物事が同時に行えなかったり、教え方が違つとわからなくなったりして、言われたことが出来なかったりします。教え方を同じにして、ゆっくり進めてもらう必要があります。

最後に、理解するのに時間がかかったり、道に迷つたり、困つた事がたくさんありますが、実際には私自身、忘れてしまう事が多いので何が困るのかわからなくなりますが、自分が障害になつてみて、経験から得たことがたくさんあります。

何度も失敗を重ねたり、不安になることもありましたが、成功した時には、大きな喜びを得る事が出来ました。それが現在のの自信につながっています。

支援者には、やさしいだけでなく、時には厳しく指導をして下さい。

そして少しでも多くの人に高次脳機能障害を理解してもらいたいです。

小澤さん投稿ありがとうございます。





報告
参加者 91 名

高次脳機能障害者の社会参加を考える ～私のボランティア活動～ フォーラム in

NPO法人VAICコミュニティケア研究所

2年を経過した「高次脳機能障害者の社会参加“ボランティアはじめの一步”」
3月7日(日)に佐倉コミュニティセンターでフォーラムを開催しました。

社会的リハビリ段階にある当事者が福祉施設などでボランティア活動に参加します。もちろんボランティア活動ですから「自分の意思」で、「やりたいこと、できること」を、「自分のペース」で提供します。とはいえサポートは必要です。そのサポートをチームで支えます。活動現場で見守りや促しなどをおこなう人もボランティア。その活動を当団体のボランティアコーディネーターと受入施設が連携してチーム活動を調整します。

2008年度は千葉県と協働実施。2009年度は千葉リハビリテーションと協働実施しました。



フォーラムでは・・・

第1部では、『高次脳機能障害とは～障害特性からみるサポート～』と題して講演、その後2009年度のチーム活動の成果報告と活動分析の報告をおこないました。

第2部は、『高次脳機能障害者の社会参加を考える』と題してパネルディスカッションを開催しました。



パネラーには当事者ボランティア、サポートボランティア、ボランティアコーディネーター、受入施設、家族の代表者が登壇し、コーディネーターには千葉リハビリテーションセンターの太田令子さんをお願いしました。



<パネルディスカッション打合せ風景>

当事者は「今まで自信がなかったが役に立っている、施設利用者に待たれていることが嬉しかった」と語り、受け入れ施設から「施設ならではの活動を一緒に考えサポートしていきたい」、家族から「医療と行政とNPOの連携がしっかり見えて安心して家族を活動に送り出せた」とあり、それぞれの社会参加意識が深まりました。



<会場からも当事者の思いが・・・>

2010年度は、サポートボランティア養成講座の開催、家族との連携強化などを進め、活動の一区切りの年としていきたいと思ひます。

(文責：佐々部憲子)



「障害年金の診断書について」



こちらでは、障害に焦点をあてた中での生活で使える訓練をまめ知識として掲載していきます

国民年金・厚生年金保険診断書（精神の障害用）の作成医について、平成21年10月22日付の社会保険庁からの通知で、これまで精神保健指定医又は精神科を標ぼうする医師が作成できることとされていましたが、てんかん、知的障害、発達障害、認知症及び高次脳機能障害等診療科が多岐に分かれている疾患について、小児科、脳神経外科、神経内科、リハビリテーション科などを専門とする医師が主治医の場合はその医師が作成できることになりました。すでにご存じの方も多いと思いますが、意外と医療機関のスタッフの周知がされていないかも…。年金事務所の職員に知ってもらうことも大切ですが、医療機関の理解も重要ですから、皆さんも病院へ行った際にソーシャルワーカーなどに「ご存じですか」と声をかけてみるのも良いかと思えます。また、年金の診断書では日常生活にどのくらい援助が必要かを評価する項目があります。例えば、一緒に生活されていて声をかけて行動をうながすことも援助になりますし、食事の場合は1食や1日といった短い期間で考えるのではなく栄養面を含め1カ月などの期間で考えるとよいと思います。診察場面でのやりとりだけでは実際の生活できる力とは違う評価で作成してしまう場合になってしまいかもかもしれません。具体的な日常生活の状況を伝えられるような準備（伝えることのメモ、家族の評価を鉛筆で印す等）をして診断書作成の診察を受けられることをおすすめします。

『診断書の時は「できないこと」を、普段は「できること」に目を向けて生活しましょう!!』

相談室 ソーシャルワーカー 森戸 崇行

インフォメーション・おしらせ

information

第6回高次脳機能障害リハビリテーション
千葉懇話会

日時■2010年7月15日(木)18:30～
会場■千葉市民会館 小ホール
〒260-0017 千葉市中央区要町 1-1
内容■講師：青木重陽(神奈川リハ)
問合せ■千葉県千葉リハビリテーションセンター地域連携部
Tel 043-291-1831(代)内 177



第一回脳損傷者ケアリング・コミュニティ学会
島根大会

日時■2010年4月10日(土)・11日(日)
会場■出雲市民会館
島根県出雲市塩冶有原町 2-15
問合せ■大会事務局 高次脳ディケアきらり
Tel 0853-25-3949 Fax 0853-25-3952
ホームページ http://caring.co-site.jp/



■毎年、庭の花桃の開花に気づき、愛でて楽しんでいますが、今年は気づいたらすでに花が咲いていて、枝いっぱいにつぼみがふくらんでいました。なぜ気づかなかつたのか？毎日、視野に入っていたはずなのに、気づかないなんて不思議なものです。ちよっと自分の中では寂しい気持ちになる春のスタートになっちゃいました。でも、切替の理由はいろいろあるもので、今の時期であれば年度替わりで気持ち仕切り直すこともできたりします。都合がいいと思われそうですが、切替の理由をいろいろと持てることは、案外いいものです。さて、今号に報告が載っている「ボランティアはじめの一歩」のフォーラムでは、参加された当事者の方々のステージ・フロアからの発言と見守り聞き入る参加者と一体となったすてきな場でした。(M)

■通勤途中に咲く白木蓮の並木道を車を止めパチリ。朝の光に照らされ、後ろの青い空に白い花が浮いているように見えました。春ですね。この掲示板が発行されている頃は桜の開花と一緒に杉花粉情報も花盛り？花盛りと言えば、編集部部の窓から見える中庭は、更生園の園芸療法で花壇をきれいにしています。夏はヒマワリ(上写真)、スイカ、トマト、冬は鍋の材料にと白菜、大根、春は菜の花、チューリップと四季を通してバリエーションになった眼玉に潤いを与えてくれています。おいしそう！とつみ食い(オツといけません)したいくらい皆さんの実をつけています。そして園芸療法を通して、土に触って一生懸命に作業をしている彼らは頼もしく見えました。これからも当事者の心の声を皆様に伝えていきたいと思っています。(Y)

編集後記